

研究主題「人と関わる楽しさを実感し、外国語を用いて

積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

ーグループのよさを生かした外国語活動の工夫ー」

東京都教職員研修センター企画部企画課

八王子市立松木小学校 主任教諭 今野 美穂子

第1 研究のねらい

小学校学習指導要領解説外国語活動編では、児童が外国語を用いて様々な相手と互いの思いを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを体験することが大切だとしている。一方、「外国語活動実施状況調査」(文部科学省 平成23年3月)では、外国語活動の授業がゲーム等で終わってしまっており、外国語を用いたコミュニケーションにまで至っていない場合が多いことが明らかになった。この課題を解決するためには、児童が使える外国語を駆使し、コミュニケーションを図ることの楽しさを味わわせるとともに、児童が外国語を用いて人と関わりたいと思う意欲を高め、伝え合う力を育成し、人と関わる楽しさを実感できるようにすることが必要である。しかし、外国語を初めて学習する段階においては、児童が理解したり、発話したりできる表現は限られている。そこで本研究では、互いの思いを伝え合い、学び合い、教え合うグループ活動を通して、外国語への不安を取り除き、人と関わることの実感させることで、より活発なコミュニケーション活動を図ろうとする態度を育成することができるのではないかと考えた。

第2 研究仮説

外国語活動の学習において、グループのよさを生かした活動を工夫することにより、児童は人と関わることの実感し、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

小学校学習指導要領解説外国語活動編や、先行研究などにより以下のことを明らかにした。

(1) コミュニケーション活動に関する基礎研究

外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するには、外国語を用いてコミュニケーションの体験を通して、児童に自分の思いが相手に伝わった、相手の思いが分かったという言葉によるコミュニケーションによる楽しさを実感させること。

(2) グループ活動に関する基礎研究

児童の緊張をほぐすために、グループで簡単なゲーム等を行うアイスブレイクは、児童の安心感や信頼感を高めることができること。

(3) 小中連携に関する基礎研究

小学校外国語活動におけるコミュニケーション能力の素地が、中学校・高等学校の外国語科の目指すコミュニケーション能力を支えるものであること。

2 調査研究

(1) 外国語活動における意識調査

東京都公立小学校教師45名と小学校第5、6学年児童184名を対象に「教師が外国語活動の

授業で主に取り組んでいる活動」と「児童が外国語活動を楽しいと思う理由」「児童が外国語活動を得意ではないと思う理由」についてアンケート調査を行った。

「教師が外国語活動の授業で主に取り組んでいる活動」は、外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむ活動が 81.3%、ゲームやグループ活動などで児童が関わり合える活動が 79.5%、児童の興味関心が高まるような課題設定の活動が 70.5%だった。一方、「児童が楽しいと思う理由」は、ゲーム活動が 38.7%、コミュニケーション活動が 5.8%だった。また、外国語活動を得意ではないと思う児童は 40.3%おり、「得意ではないと思う理由」では、「外国語が覚えにくいから」が 20.6%、「言っていることが分からないから」が 11.4%であった。このことから、外国語活動の授業ではコミュニケーション活動が行われているものの、児童が人と関わることの楽しさを実感できるところまでは至っていないと考えられる。

3 開発研究

児童が人と関わる楽しさを実感するために、①児童が外国語を用いて人と関わりたいと思う意欲を高める、②伝え合う力を育成する、③人と関わる楽しさを実感できる振り返りや学習形態を工夫する、の 3 点を手だてとして単元指導計画を作成した。

(1) 児童が外国語を用いて人と関わりたいと思う意欲を高めるための手だて

ア グループのよさを生かした課題設定

外国語を用いて個々が集めた情報を基に自分の考えをもち、グループで考えを深めることができる課題及び、自分の思いを伝えたり、相手の思いを知りたいと思う意欲を高めるため、自分の思いを生かして解決する課題を設定した(表 1)。

設定した課題	活動名・活動内容
個人で集めた情報を基に解決する課題	校長先生の T シャツを作ろう ① “What do you like?” を使って、校長先生にインタビューをする。②グループのメンバーが集めた情報を生かし校長先生の好みに合った T シャツを作る。
	Who am I? ① “What do you want?” を使って、それぞれ自分の欲しい物を伝え合うインタビューゲームを行う。②集めた情報を活用し、HRT(担任)の出した質問に合う友達をグループで探す。
自分の思いを生かして解決する課題	フリーマーケット ①「Hi, friends! 1」 Lesson 6 の “What do you want?” を使って、自分が売りたい商品(アルファベットで表示できるもの)を画用紙に描く。②その商品の PR を考え、フリーマーケットでお客さんに英語で商品を売る。

表 1 課題設定の例

イ 教材の工夫

児童が人と関わりたいと思う意欲を高めるために、グループで課題解決するよさを実感できるような教材や活動後に児童相互の関わりを確認できる教材などを作成した。アルファベットの大文字を集めて世界の都市名を作る活動では、グループで分担していろいろなグループを回りアルファベットカードを集め、その後、カードの裏にある国旗をヒントにグループで都市名を完成させる教材を作成した。

ウ 目標の明示

単元全体を通して、目標を意識して主体的に活動するために、単元の始まりに、単元の最終活動(ゴール)を児童に明示した。また、授業の始まりでは、毎時間授業の目標や流れを、黒板に掲示するとともに、授業のまとめで活用する児童の振り返りカードに明記することで意識付けを行った。

(2) 伝え合う力を育成するための手だて

ア 外国語を用いたアイスブレイクの活用

本研究では伝え合う力を育成するために、以下の3つの視点を反映させたアイスブレイクをグループ活動に取り入れた。

- ①メンバーが自分の考えを交流できること、
- ②グループで過度の競争にならないこと、
- ③児童が間違いを気にせず、外国語に慣れ親しみ、伝え合いができること。

イ 発話量を増やす工夫

発話量を増やし、円滑なコミュニケーションを図るために、互いの思いを伝え合う活動では、称賛や共感、感謝など自分の思いを伝える言葉(good、nice、really?、sure、thank you など)を相手に伝えるようにした。また、グループ全員が発話するために、順番に尋ねたり、答えたりできるよう活動を工夫した。

ウ 模擬体験の活用

全体での活動に入る前に、使用するフレーズや、方法に慣れ親しむために、グループ内で模擬体験(模擬フリーマーケットなど)ができるようにした。

(3) 人と関わる楽しさを実感できる振り返りや学習形態を工夫した手だて

ア 振り返りの工夫

毎時間の終末に、他者からの自分に対する肯定的な意見を参考に自己評価をするため、友達のよいところを伝え合うグループごとの話し合いを行った。また、様々な友達のよいところに気付かせるため、毎回評価する相手を替えて他者評価を行った。さらに、毎時間の活動や振り返りの視点を明確にするために、授業の始まりに、振り返りで気が付いた友達のよさを聞くなどの活動を取り入れた。

イ グループのよさを生かすための学習形態

自分の考えをより深めるために、グループ活動など学習形態を工夫した。例えば、「身近にあるアルファベットを考えよう」の活動では、CDやTVなど身近にあるアルファベットを個人で考えた後、グループで考えを出し合ったため、いろいろな考えに触れ、自分の考えを深めることができるようにした。

4 検証授業

《検証授業の概要》

- ・ 対象：都内公立小学校第5学年 3クラス 114名
- ・ 単元名：「Hi, friends! 1」 Lesson 5 “What do you like?” 「友だちにインタビューしよう」
「Hi, friends! 1」 Lesson 6 “What do you want?” 「アルファベットをさがそう」

(1) 児童が外国語を用いて人と関わりたいと思う意欲を高めるための手だての検証

「Hi, friends! 1」 Lesson 6 の第4時のフリーマーケットでは、CDやDVDなど身近なアルファベットやイラストなどを用いて商品を考えてことで商品に対する興味が深まり、外国語を用いて商品のPRをしたり、友達の商品のPRを聞いたりすることができた。また、より効果的な説明をするために互いの知っている外国語を駆使するなど、活発なコミュニケーションを図ることができた。第2時の活動では、次時に必要な情報を得ることが目的であったため、インタビュー活動の目的が明確になり、グループで協力しながら、積極的に取り組むことがで

きた。

(2) 伝え合う力を育成するための手だての検証

「Hi, friends! 1」 Lesson 5 の第 1 時の色や形の学習では、世界のポストの色を当てたり、様々な形の岩や石を見て何に見えるかグループで話し合わせたりした。その結果、外国語で自分の考えを伝え、相手の考えを知る楽しさを実感することができた。また、「フリーマーケットをしよう」では、模擬フリーマーケットをグループ内で体験したり、活動の内容をイラスト化したカードで確認したりしたことで、フリーマーケットで使う外国語の言い方に慣れ親しみ、外国語を用いて互いの思いを伝え合うことができた。

(3) 人と関わる楽しさを実感できる振り返りや学習形態を工夫した手だての検証

振り返りを取り入れることで、自分や友達のよいところや考えの相違などに注目して活動し、相互理解を深めることができた。振り返りカードの記述では、単元の初めの「聞きたいことに答えられた。」から「相手に分かりやすく自分の思いを伝えられた。」などの児童の変容が見られた。

(4) 児童アンケートから見る児童の意識の変容

検証授業後の児童へのアンケート調査では、グループ活動において外国語を用いて自分の思いを伝えることができたと感じた児童は 7.2 ポイント(図 1)、友達の伝えたいことが分かったと感じた児童は 12.3 ポイント(図 2)、外国語が得意と感じた児童は 14.4 ポイント増えた。(図 3)。また、外国語で友達と自分の考えや思いを伝え合うことが楽しいと感じた児童は 11.4 ポイント(図 4)、いろいろな人と関わろうとしている児童は 1.9 ポイント増加した(図 5)。

第 4 研究の成果

外国語活動の授業において、児童が互いの思いを伝え合ったり、協力して課題に取り組んだりできるグループ活動を工夫することにより、児童は人と関わる楽しさを実感し、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図るようになることを明らかにすることができた。

第 5 今後の課題

- ・ 検証授業を行った単元以外の単元指導計画の開発をする。
- ・ 小学校外国語活動と中学校外国語科の円滑な連携の在り方について研究する。

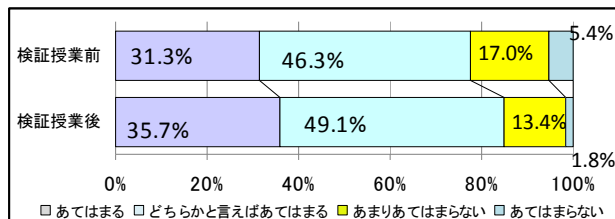


図 1 外国語で自分の伝えたいことを伝えることができますか

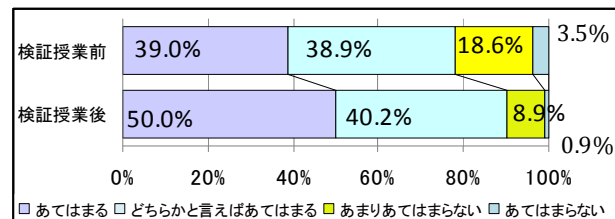


図 2 友達が話す言葉を聞いて、友達の伝えたいことが分かりますか

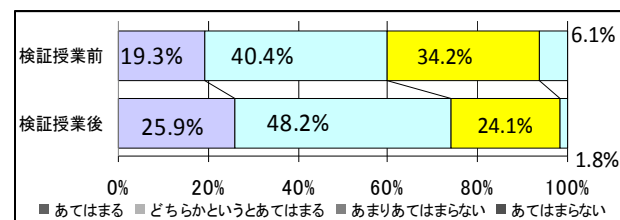


図 3 外国語は得意ですか

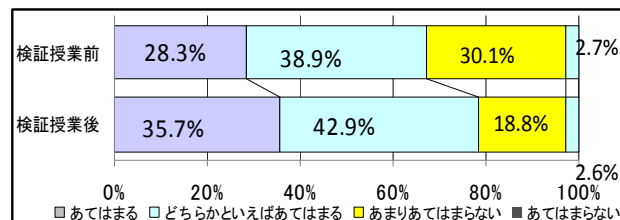


図 4 外国語で友達と自分の考えや思いを伝え合うことは楽しいですか

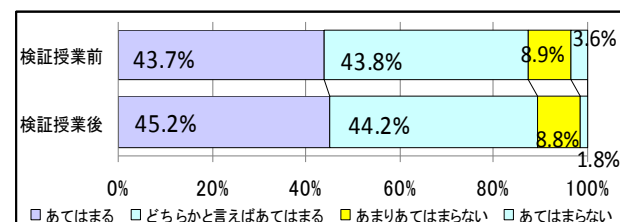


図 5 ゲームやグループ活動では、いろいろな人と関わろうとしていますか